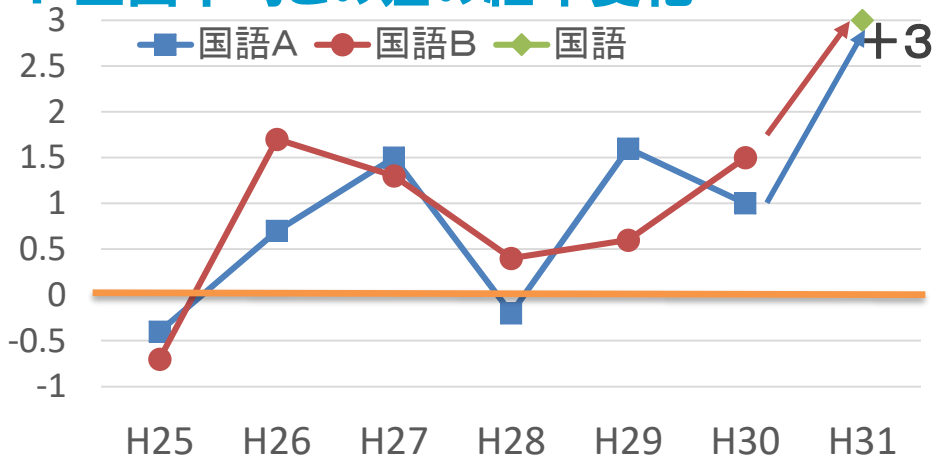


## 結果のポイント

### 1 全国平均との差の経年変化



○3年連続で全国平均を上回っており、全国平均との差は3pと過去最高となった。

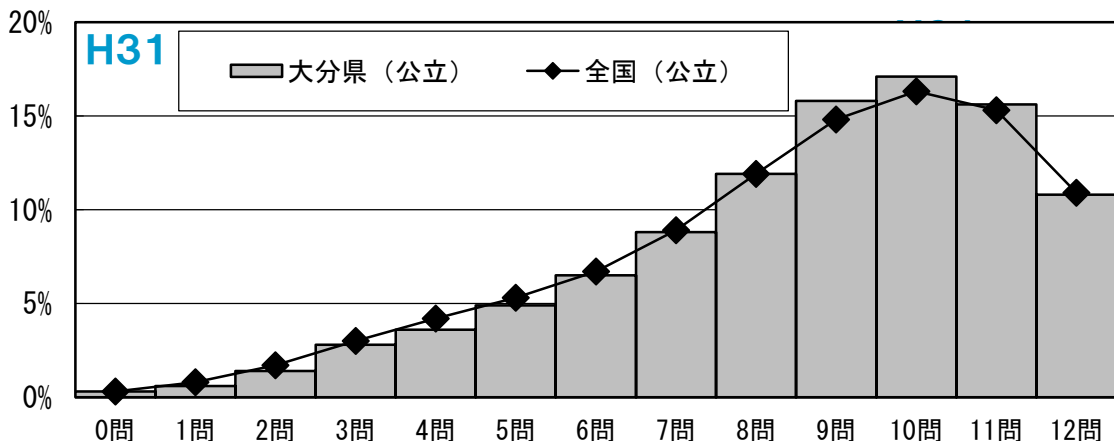
## 2 領域別の結果

領域	県	全国平均
話すこと・聞くこと	76.0	72.3
書くこと	57.0	54.5
読むこと	83.8	81.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	57.1	53.5

○全ての領域で全国の正答率を上回っている。また、設問ごとの結果についても、全ての設問で全国の正答率を上回っており、学習内容の定着がおおむね図られている。

▲「書くこと」領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率は、「話すこと・聞くこと」「読むこと」領域の正答率に比べ、全国値同様に低くなっている。

## 3 正答数度数分布



○正答数が全国平均以上(9問以上)の児童は65.5%であり、全国値60.3%を上回っている。

▲低学力層(正答率20%以下)の児童の割合は全国値(5.4%)に比べ低いものの、3.6%となっており、引き続き低学力層の引き上げが課題である。

# 課題が見られた問題と指導の改善

## 1 正答率が低かった問題

大問1 設問三【平均正答率 大分県30.6% 全国28.8%】

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかをみる問題。

三 に入る内容を、次の条件に従って書く。

<条件>

- 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、40字以上、70字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数に含む。

3

この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいかということも考えました。今回の調査を通して、学校の友達に「公衆電話の設置場所を調べて、学校に知らせたい」といってほしいです。

（2）公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか、次のような使い方や持ちようがありました。

・警察署（110番）や消防署（119番）には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができます。

・停電のときでも、硬貨を使って通話することができます。

・電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。

このように、公衆電話は、さん急のときにも使うことができるということが分かりました。

（3）公衆電話はどのような場所にあるのか、公衆電話を必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが（資料3）です。

（資料3）  
公衆電話の設置場所を示した地図

## 指導の改善

### 【学習指導のポイント】

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるようにする。

- 自分の考えが相手に伝わるように書くためには、事実と考えとを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大切である。その際、文章の種類や特徴を踏まえて書くことが重要である。
- 指導に当たっては、以下のような学習活動が考えられる。「生活の中で気になったことを調べて、報告する文章を書く」
  - ①生活の中で気になっていることについて報告する文章にまとめる、というめあてを確認し、どのような構成で書くのかという見通しをもつ。
  - ②調査を行い、調べた結果を整理して、書くために必要な事項を選ぶ。
  - ③報告する文章の構成表を作る。
  - ④【構成表】をもとに記述し、推敲する。
  - ⑤書き終えた報告する文章を互いに読み合い、学習のまとめをする。

